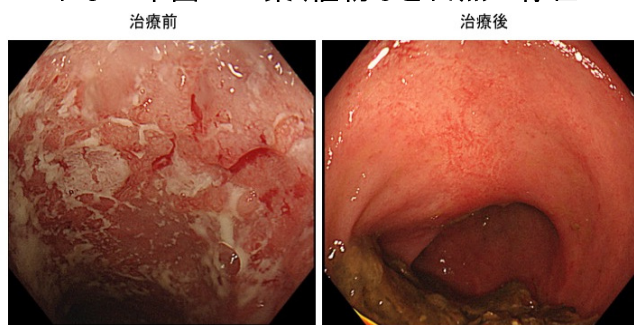


潰瘍性大腸炎患者さんに対する新しい治療法(青黛)の臨床試験を行っています

当院では潰瘍性大腸炎患者さんに対して、患者さんの状態、社会的な背景などを総合的に考え治療を行っていますが、なかなか症状がよくなる患者さんも存在するのが現状です。

我々はこのような難治例の患者さんを中心にこれまで中国の生薬(植物など自然に存在する産物から病気を改善させる治療)である青黛(せいたい)を使用しており、約70%の患者さんで症状が改善したことを確認してきました。先行の臨床試験においてご協力いただきました患者さんに感謝の意を示すとともに、試験の成果については海外の学術誌に掲載されました。

(Sugimoto S et al. Digestion 2016;93:193-201, PubMed ID 26959688)



現在、青黛の治療法が科学的に有効であるか、またどのくらいの量で最大の効果が得られ、かつ副作用が少ないかを検証する臨床試験を行っています。この試験は慶應義塾大学病院をはじめとして全国で約25施設で施行もしくは施行開始予定です。

下記の患者さんが試験に参加できます

- 血便・粘血便が持続して改善しない
- 座薬や注腸を使用すれば良くなるが、やめると血便がでてしまう
- ステロイド減量中、中止後に再燃してしまった
- プログラフ、レミケード、ヒュミラなどの強力な治療法をおこなっても完全にすっきりしない

すでに青黛を服用したことがある方など、治療の内容や症状の程度により参加できない場合もありますので、詳細は外来の先生とご相談ください。

慶應義塾大学病院 消化器内科
教授 金井 隆典